

会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所
 一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
 発行責任者 宮島喜文
 編集責任者 中井規隆

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
 TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
 ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

P1 4月15日は“BLS DAY” / 住所変更はお早めに！！
 P2 シリーズ 検査技師の新たな取り組み ～心肺蘇生 ④これからの新たな道～

- Greetings from IFBLS -

4月15日は“BLS DAY”



International Federation of Biomedical Laboratory Science

今回のBLS DAY ポスター

日本臨床衛生検査技師会の会員の皆様こんにちは。

IFBLSからBLS DAY (Biomedical Laboratory Science day) のお知らせです。

4月15日は、世界医学検査DAYです。ご存じないかたは、是非ご承知おきください。IFBLS加盟国では、毎年BLS DAYのイベントが開催され、IFBLS事務局に報告されています。

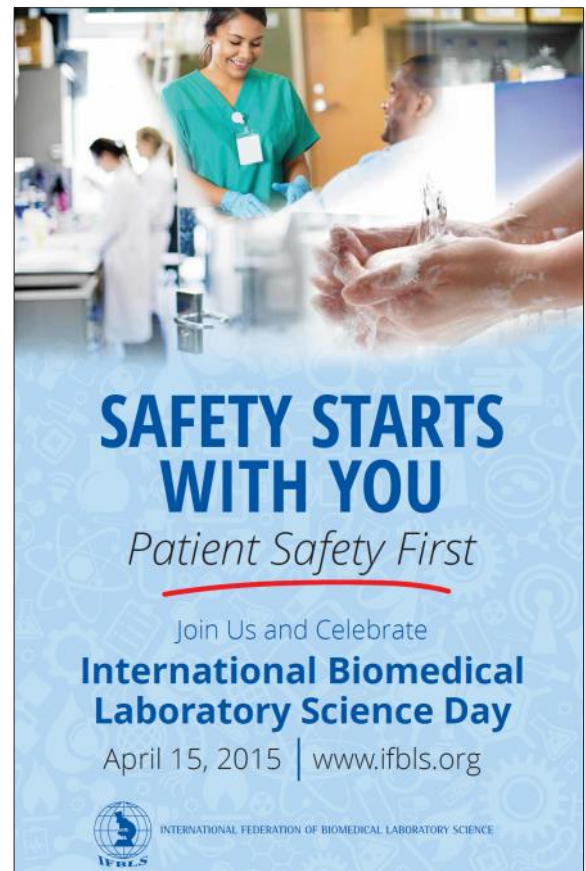
私は今回はイタリアのBLS DAY CEREBRATIONにIFBLS役員として参加して参りますので、その様子はまた会員の皆様にご報告申し上げたいと思います。

BLS DAYは1996年、オスロのIFBLS学会にて4月15日をBLS dayとして、臨床検査ならびに臨床検査技師の広報活動などを行うことが決定されております。IFBLSはWHOの発信するWHO Millennium Development Goals (MDG's)より、IFBLSとしての年間テーマを考えポスターを作成し、各国に送信しています。

IFBLSでは祝典や行事などをこの日に行うことを推奨しています。支部の皆様・会員の皆様におかれましては、一般のかたには臨床検査の普及を、会員のかたには世界共有の活動の日として、4月15日という日をお祝い下されば幸いです。

今回のIFBLSテーマはPatient Safety Firstです。ポスターは日本臨床衛生検査技師会のホームページからもIFBLSのWEBからも印刷可能です。どうぞご活用ください。臨床検査技師の広報活動を世界レベルで行いましょう！

IFBLS PAST PRESIDENT
 小松 京子 (日臨技理事)



BLD DAYのガイドラインは以下のアドレスで見ることができます。
www.ifbbs.org/images/BLS_Day_Guide_to_Arrangements_Revised_2014.pdf

住所変更はお早めに！！

新しい年度を迎え、職場の異動や引越しが多い季節になってきました。

会員情報の変更はお済みですか？

ご自宅住所や職場の変更を頂きますと、会からの重要なお知らせや会誌「医学検査」がお手元に届かなくなってしまうます。

ご住所、勤務先に変更があった場合はいずれかの方法で、速やかに変更手続きをお願いいたします。

- ①当会HPの会員専用ページにログインしていただき会員情報を変更いただけます。
- ②会員異動届をダウンロードしていただき、ご記入のうえ事務局までご郵送ください。

(事務局)

シリーズ

検査技師の新たな取り組み

心肺蘇生 ④これからの新たな道

ここまで蘇生に関するインストラクター資格取得までの概要を話しました。

巷では多くの講習会が開催されています。前述したICLS以外にも、成人二次救命処置（AHA-ACLS）、小児二次救命処置（AHA-PALS）、新生児蘇生法（NCPR）など、また脳卒中（ISLS）や外傷、熱傷のコース等もあります。

すべてのコースにインストラクターがおり、受講生をファシリテートします。

では、インストラクターの資格を取得してON-JOBに活かせるのでしょうか？

臨床検査技師としての技術や知識の向上に直接関与することは少ないでしょう。しかし、前回お話しした「他人に教える」という事を少し思い出してください。皆さんの職場にも多かれ少なかれ、部下や後輩がいる方が多いと思います。当然、業務を教える（教授する）ということがあります。また、臨地実習をされている施設であれば実習生が来るはず。そんなときにインストラクションの手法を使ってファシリテートしてみてもどうでしょうか？一方的なレクチャーでは学習定着率も悪いどころか、自分の能率も下がります。結局「喋った」という満足感だけで終わってしまいます。でも、言葉は少なくとも双方向の会話や、実習をしている実習生をしっかりと観る事によって、理解度も見えてきます。また、教えている人の見られ方も変わってきます。

ちょっと横道にそれましたが、本題に戻ります。このインストラクターという資格を自分や検査室だけで無く病院で活かす事ができれば、もっと活動範囲が広がり、多職種のスタッフとコラボレートできるようになります。チーム医療のひとつともいえます。自分の経緯とともに今後の活動についても私見を交えてお話しします。（図1）

蘇生講習を受けてから十数年が過ぎ、多くのことも学び助けられながらここまで来ました。病院内での理解もあり、ICLS講習会を年8回程度、BLS講習会を年12回程度勤務時間内に開催させていただいております。

「継続は力なり」、続ける事で次世代に繋いでゆくことも大切ですが、講習の質を保つべく、参加するインストラクターのレベルを維持、向上させる事も考えながらチーム医療の一員として院内だけでなく、地域医療に貢献していくことが新たな道でもあると思ひ頑張っています。

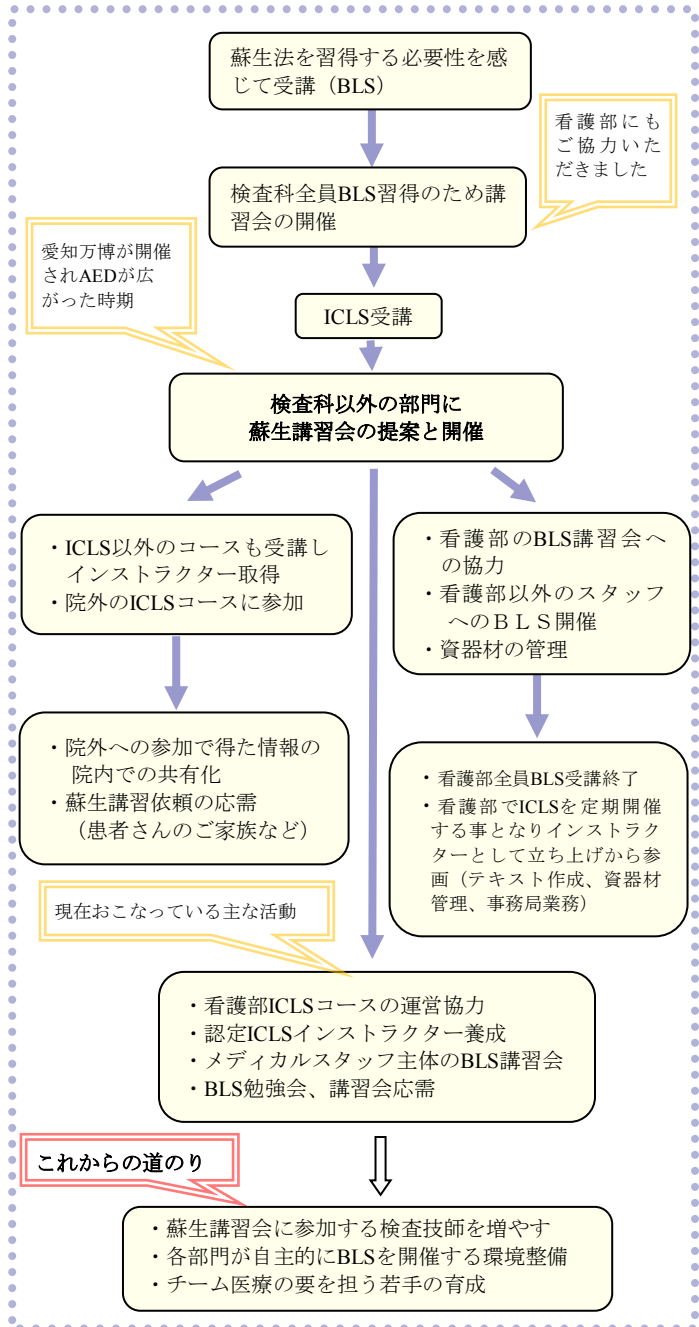
最後になりますが、

**「やってみせ 言って聞かせて させてみせ
ほめてやらねば 人は動かじ」**
「話し合い 耳を傾け 承認し 任せてやらねば 人は育たず」
「やっている 姿を感謝で見守って 信頼せねば 人は実らず」

これは、有名な山本 五十六の名言です。人を動かすためにはどうすれば良いか。まさにこれからの道のりにふさわしい言葉と思ひ、載せてみました。

皆さんにはどのように響くでしょうか。

図.1 今までとこれから



愛知万博が開催されAEDが広がった時期

看護部にもご協力いただきました

現在おこなっている主な活動

これからの道のり

4回の連載にて寄稿させていただきました。ご意見、ご質問があればご連絡いただけますと幸いです

JA愛知厚生連 海南病院
臨床検査技術科 志水 貴之
0567-65-2511 (内線4035)
shortrun@kainan.jaaikosei.or.jp



（編集後記）桜も満開からあつという間に散り始めています。歌詞ではないですが、慎ましくも華やかに咲き、はかなく散り去る姿に日本人は何故か心惹かれますね。桜にも花言葉があり、桜全体として「精神の美」「優雅な女性」だそうです。桜は国花といわれていますが国が定めたものではなく菊とともに国民に愛好され象徴となっている花だそうです。ちなみに「櫻」という字は「桜」の旧字体で「男はつらいよ」という映画のフーテンの寅さん曰く「にかいのおんなはきにかかる」と言うそうです。

【中井】